

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100435		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	すずらん大山田		
所在地	三重県桑名市大山田2丁目7番地11		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 16 日	評価結果市町提出日	令和3年1月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_033_kihon=true&JigvosvoCd=2470100435-00&ServiceCd=780
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 12 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地にあり、周りには池や公園もあり、密集地ではなく、緑豊かで四季の移りかわりが良よく感じられる。少人数での生活なので、利用者様の变化にすぐに気づくことができ、対応することができる。食事は手作りで旬の食材を取り入れたり、栄養面にも工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所20年目の静かな住宅地にあるデイサービスを併設した事業所である。管理者・職員は事業所理念を共有し、地域との関わりを大切にしながら利用者支援に取り組んでいる。1階の居間兼食堂でデイサービス利用者と一緒に、レクリエーション・ゲーム・作品作り等を楽しんでいる。管理者・職員は、自治会長・民生委員・行政・関係機関・地域住民の理解と協力を得て、利用者が豊かで安心して生活が出来る事業所を目指して支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを常に心に留め、理念に基づいたケアが出来るように職員一人ひとりが日々努力している。	理念は玄関に掲示してあるが、利用者にはその人らしく・私らしくに心掛け、言葉使いや接する態度に気をつけている。自分なりに利用者寄り添い、良く見て傾聴し、思いや意向を聞き取り、その都度気がついた時は、職員間で注意しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	静かな住宅街にあり、自治会に加入させて頂いて、町内清掃に参加しており、また消防訓練にも一緒に訓練したりしています。	自治会に加入しており、町内の清掃活動への参加や地区の防災倉庫の説明に参加するなど、地域住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進委員会を通じ、事業所の情報を提供したり、地域の困り事を皆で解決の方向へ考えたり、地域包括支援センターの方や市役所の方に助言を頂いたりして相談しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の影響でテーマについて意見を伺い、議事録を作成することで緩和されることになりました。	家族代表・自治会長・民生委員・市介護高齢課・北部包括支援センターの参加で、2か月に一回開催している。現在コロナ禍で7月から中止しているが、管理者が各委員に連絡し、意見を聞いて議事録を作成し参加者に報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の運営推進委員会に地域包括支援センターの方と交代で参加していただいたり、介護保険の更新申請の代行をしております。	市介護高齢課、北部地域包括センター担当職員から運営推進会議への意見を聞きに行っている。運営推進会議の議事録を届け、連携を図っている。また、生活保護者の受け入れ要請もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き、職員は身体拘束をしないケアについては十分理解をしています。	指針に基づいて身体拘束等の適正化を検討する委員会を開催している。また、職員会議で身体拘束事例を参考に研修を実施しており、1階共有スペース入り口に身体拘束廃止宣言が掲示してある。現在帰宅願望の方がおり、玄関の施錠はしているが常に見守りには徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、職員は身体拘束をしないケアについては十分理解をしております。開いて職員は虐待防止の意識を高め、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を利用されている方も有り、個々の生活事情では、必要性を認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の生活事情を理解し家族等の不安や疑問に対し、丁寧に説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族からの意見、要望は大切ですが内容により希望に沿えない場合には懇切丁寧に説明を行い、理解を得る。	運営推進会議や面会時に家族の意見を聞くようにしている。意見や要望を職員が共有し支援に繋げている。「すずらんだより」を毎月発行し、利用者の事業所での生活の様子を伝え、感想を聞いて運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表・管理者の定例会議があり、又日常のミーティング等で意見の交換を行っている。	管理者は常に職員が話し易い環境づくりを心掛け、職員会議や業務の中で常に意見や要望を聞いている。席を相性の会う人と同席にしたり、入浴の順番を考慮したりして、事業所運営や利用者支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務姿勢は前向きで、やりがいに繋がり意欲が出る現場の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、責任者は職員の業務の姿勢、力量を把握し、施設内研修は実施。施設外の研修の機会も確保していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所にはサービスの種類が異なる事業所が有り、定例会議に参加し、意見交換を行っている。それぞれ、サービス向上の為に努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方に寄り添いながら、ご本人の気持ちをお聞きし、またご家族の方からも細かい所までお聞きして取り入れられる所は取り入れ、安心して生活して頂けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、ご家族の方からの情報を出来るだけ多く聞かせて頂いて、ご本人やご家族が安心して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の方の要望を聞かせて頂き、まず、ご本人の様子を観察し、出来る事を活かした無理のない支援をしていきたいと思っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の声かけに気をつけてその方の出来る部分を認め、自立に向けた支援に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で変化があったことなど、密にご家族の方と連絡、報告を行い、定期的に面会に来て頂いたり、遠方の方には電話で会話して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会して頂ける様な環境になっております。	コロナ禍で事業所内に入れないので、窓越しに知人や友人と面会をしている。友人や知人に携帯電話を掛ける利用者がいる。年賀状を書く利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、程よい距離間を保ったり、良好な関係になる様に支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を離れることになられても、何時でも相談支援に対応できる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人のペースで穏やかな生活が送れるように支援に努める。	日々の会話や行動、居室や入浴時の一对一の会話から思いや意向を把握している。把握した思いや意向は支援経過に記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、又環境の違いもある中、大きな変化にならない様に支援を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活リズムが有りますが、本人の体調に合わせて穏やかに過ごして頂く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に個々の変化、特に心身面での変化に気を付け職員間でケア検討を行い、計画に反映。	6か月毎にサービス担当者会議を開催し、職員と計画の結果報告・評価をして、利用者面会時の家族に意向を聞き、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援経過記録に記載し、職員間で共有し計画に反映。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者、家族には、状況の変化があり、形式的なサービスでなく、柔軟なサービス支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による支援を地域包括支援センターの方の協力を得ながら、活用していきたいと考えております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診をして頂いており、緊急時にも受診が出来、適切な医療を受けられる様に支援しております。	利用者5名が月に1回協力医の訪問診療を受診している。1名は従来からのかかりつけ医を受診している。かかりつけ医の受診時は日頃の生活状態等の情報を家族に渡し、協力医は事業所で受診支援をしている。また、法人の看護師の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員との連携が出来ており、適切な処置が出来る様になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーを共有し、医療関係者と連携を取り、情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、入所時に確認をすると共に、終末期に近い状態になりましたら、再確認を行い、関係者と共にチームで支援の取り組みをしています。	契約時に、協力医による24時間対応の体制が整っていないので、重度化や終末期のあり方について説明し、事業所で看取りが出来ない事を家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送、ご家族への連絡、かかりつけ医への連絡等の手順を職員全体で日頃から把握し、対応出来る様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員が戸惑わない様に努力しています。また、近隣住民の方の協力が得られる様に訓練に参加して頂いています。	毎年、デイサービスと合同で、年に2回防災訓練を実施する予定であるが今年度は実施していない。防災頭巾が居室の各居室の入り口に掛けてあり、水と食料の備蓄がある。また、防災備品が目につき易い場所に置いてある。	二階が居室なので、消防署の指導による夜間を想定した等、二階からの避難誘導訓練を実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもあり、一人ひとりのプライバシーの確保をすると共に、言葉かけの対応をしております。	呼称はさん付けで呼んでいる。利用者への言葉使い、トイレ誘導や入退室時の声掛け等でプライバシーを損なわないように配慮をしている。また、「すずらんだより」は各利用者個々に作成し、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にお聞きすると共に、自己決定しやすい様な雰囲気づくりをしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、その日の気分や体調に合った支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整髪、定期的に訪問理容の利用をしております。服装はご自分で選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみのひとつになっているので、メニューを話し合ったり、嗜好品を食材に用いたりして、食事が楽しめる工夫をしています。	献立により職員が食材を併設のデイサービスと共同で購入し、職員が調理をしている。調理専任の臨時職員が利用者の希望や好みを聞き、季節の食材を使った手作りの家庭料理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の確保には十分気をつけており、個々の利用者の方の摂取状態に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の方に応じた口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、自力でトイレに行けない方も声掛けによりトイレ誘導を行い、介助により排泄が出来る様に支援を行っております。	現在布パンツ2名、リハビリパンツ4名、1名が紙オムツを使用している。排泄パターンを把握して定期的に声掛けし、トイレ誘導や見守りにより排泄支援をしている。夜間のみポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行っています。便秘の方には医師による緩下剤を利用しています。また食事でも食物繊維が含まれる食材を取り入れ、無理のない程度に身体を動かすことも行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴はご本人が疲れるので、週3回、ゆっくり入浴出来る様にしています。	週に3回、午前中に入浴をしている。利用者1対1で会話しながら個々の利用者はゆっくりと湯舟につかり入浴を楽しんでいる。ゆず湯で季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて就寝して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個々のファイルに保管しており、職員は常に確認が出来る様になっています。保管も厳重にしてあり、閲覧には管理者の許可を得るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみを手伝って頂いております。また好きなテレビ番組を見ております。動物や小さな子供が出た番組は特に喜ばれ、笑顔になられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症のため、外出は控えています。	自治会の回覧板の配布や、事業所周辺を会話しながら散歩をしたり、ドライブを兼ねて桜の花見に出掛けている。また、家族と一緒に外食に出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々により使う頻度が異なる日用品の買い物は職員が預かり金の中で買い物をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話の取次ぎを支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の保持、空調機でお室温管理・換気に配慮しております。周りの景色が良いので季節の移り変わりを感じてもらっています。	1階の食堂兼居間でデイサービス利用者と一緒にゲームやレクリエーションを楽しんでいる。周りに池や林があり、四季の移り変わりを感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされています。体調の悪い時は静養室を利用されます。自分の居室へ行かれたり、気に入った場所で過ごされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを観たい方は各自持参で。寝具等も自分の使いたい物を持ってきて頂いています。	エアコン・ベット・押し入れ・籐の椅子・テレビ台が設置されており、写真や手作りの作品が飾ってある。パソコンを使用している利用者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活全般にわたり、ご自分で出来ること、介助が必要なことを見極め、自立に向けた支援を行っております。		